

播州織

〈沿革および特色〉

播州織は西脇市を中心に加西市、加東市、丹波市、多可郡、神崎郡の四市二郡にまたがり、県下有数の地場産業として成長してきた。

その起源は古く、寛政4年(1793年)比延庄村(西脇市比延町)の大工飛田安兵衛が京都西陣からその技術を導入したことが始まりと伝えられている。明治の初めには、津万郷(市内津万)を中心に60~70軒の織布業者が、機業を営んでいた事実が史料に記されている。

明治25年には、多可郡綿木綿業組合を設立して組織化が始まり、全国でも類をみない強固な組合精神が現在も受け継がれている。

当時の主要製品は、国内向けの着尺地(バンタツ)が中心であったが、第一次世界大戦を境に海外市場の混乱に乗じ東南アジア向け先染織物の販路開拓に成功して輸出向けが中心となった。昭和に入ると、業者数及び生産額が増加、品種も多様化した。昭和5年には広幅輸出用織機8,700台を数え、年間1億平方ヤードを生産する一大輸出産地として第一次黄金時代を築いた。

戦後は、発展途上国の繊維工業の発達とともに、従来の東南アジアを主力とする仕向地での競争を避けて、高級綿布生産に産地機構全般を再編成した。昭和29年頃よりアメリカ市場の開拓に成功するとともに、同市場を中心としてカナダ、オーストラリア、中南米、アフリカから欧州の一部まで販路を拡げ、ほとんど世界各地に商圏を確立し、第2次黄金時代を迎えた。

昭和38年頃より従来の綿スフ織物一本やりの保守的かつ画一的な生産形態が徐々に改革され、化合織ギンガム、化合織ドビー、麻混など各種の新品種が開発されて生産品種に弾力性が加わり、国際市場における競争力は一段と強化された。

近年は構造改善事業により、設備の近代化・合理化を推進し、製品の高級化や高付加価値化を図って国際市場における競争力を充実させた。さらに昭和51年度より播州織総合開発センターを軸として、新商品・新技術の開発、人材養成、情報の収集提供、各種試験検査などソフト面の事業を行い、積極的に取り組んできた。しかし、昭和60年以降の急激な円高は、輸出環境を一層厳しいものにした。これに対し産地では、高級化や国内市場の拡大を図り対応した。

市況は安価な輸入品の増加に加え、国内景気の低迷などから国内需要が大幅に減退し、輸出環境も悪化している。そのため業界は、準備工程の円滑化を図るために「協同組合播州織総合準備センター」において新たに畦取りを開始し、経通し作業とあわせて準備工程の円滑化を図ると共に、新素材・新製品の開発、見本市の開催など需要の喚起を図るための対応策を展開している。

また、産地全体の問題でもある産業廃棄物の処理については、「播州織産地対応システム」を構築し、処理と再利用を行っている。

平成20年2年8日、地域団体商標に「播州織」を登録。産地では、そのロゴマークの普及・PRを進めている。

〈団体(問い合わせ先)の状況〉

播州織工業組合 〒677-0033 西脇市鹿野町267-6

TEL 0795(22)1881 FAX 0795(22)7883
兵庫県織物協同組合連合会 〒677-0033 西脇市鹿野町162
TEL 0795(22)1881 FAX 0795(22)7883
ホームページ <http://www.banshuori.jp/>

《事業活動》

- 輸出振興対策事業
- 環境問題に関する事業
 産業廃棄物処理システムの推進と騒音・振動対策についての指導
- 繊維産地活性化事業
 播州織アンテナショップ調査研究事業
- 労務問題
- 国内見本市の開催
 ジャパンクリエーション、播州織総合素材展
- 金融事業
 金融相談、各融資制度の斡旋等
- 各種保険事業
 火災保険、生命保険、自動車保険、労働保険等の実施
- 組織活動の推進
 品種別部会、青年部会、サイジング部会等における調査研究事業や取引改善委員会による取引適正化の取組
- 準備事業の推進
 革新織機用耳カッターの研磨事業と(協)播州織総合準備センターの推進
- 循環型社会先導プロジェクト推進事業費補助事業の推進
 「循環型社会のための播州織産地の対応システム」の構築

糸・染色

《沿革および特色》

繊維染色業界は、約200年前に北播磨地域に播州織が興って以来、織物の発展とともに成長してきた。その技術は文政年間（1818～29）に京都の友禅染から採り入れられたもので、後に筑前博多の染色法が加わった。明治初期までの技術水準は植物染色の段階であった。

明治10年頃、ドイツ製化学染料の導入は、色調の多様化と技術の向上を促した。それに伴い経営形態面でも家内工業から近代化的企業に変貌を遂げた。また、当時、技術の改善や安売り防止などを目的とする「恵比須講」と呼ばれる協同組織が生まれ、今日の協同組合の原型となった。

先染織物における糸の染色と漂白は高い水準の技術を要求され、色調の多様さもあり、機械化は困難なものとしていた。しかし、時代とともに染色機械の発達、染料の改良等によって機械化が可能となった。さらに、従来の総染色からビーム染色、綿スフから合成繊維染色へと技術革新が行われた。

戦後、染色業界は順調に発展し、昭和47年には生産量8,200万ポンドに達した。その後、オイルショックや対米繊維輸出規制等により、昭和49年の生産量は5,300万ポンドとなり、それまでの平均水準の約75%に低下した。しかし生産量は再び増加基調に転じ、昭和62年には1億1,044万ポンドと過

去最高を記録した。その後、バブルの崩壊による不況や急激な円高により平成7年の生産量は7,575万ポンドまで低下した。その後、低下傾向が続き、平成21年には生産数量は2,396万ポンドになった。平成22年で少し持ち直したが、平成23年の生産量は2,384万ポンドに低下した。

染色業界は昭和45年度から49年度にかけて、播州織に併せて、中小企業近代化促進法に基づく構造改善事業に取り組んだ。また昭和45年、53年、56年と3回にわたって排水処理施設および関連機器の整備に約30億円を投じるなど、公害対策にも万全を期している。

これまで染色業界は、過剰設備の政府買い上げや企業合同などによって体力をつけてきた。しかし染色業界や播州織業界の環境は内外共に極めて厳しい。そのため染色業界は新しい染色方法の開発、先端技術の積極的な導入等、徹底した合理化を行い、新しい発展を目指している。

《団体（問い合わせ先）の状況》

兵庫県繊維染色工業協同組合 〒677-0015 西脇市西脇926
TEL 0795(22)3281 FAX 0795(22)3283

《事業活動》

- ・会議連絡協調の業務
- ・専門委員会
- ・試験研究
- ・スラッジ処理場運営
- ・スラッジリサイクル事業

但馬ちりめん

《沿革および特色》

但馬ちりめんは、文化年間(1807~17)に丹後峰山から技術が移入されたことに始まる。

但馬ちりめんの産地は、湿度が高いことや、産地が円山川の上流に位置し水資源に恵まれていることなど、絹織物生産に適した条件の下で発展した。その後、大正15年に電力供給に伴い、本格的に発展し、戦前のピークとなった昭和12年には織機が1,344台に達した。

しかし、同年に日華事変が勃発し、続いて太平洋戦争が始まると、軍部の命令により大半の織機が供出され、残った280台の織機は、指定生産に当たった。

昭和27年、県の産業振興計画、続いて出石郡内の町村による特産振興策などが実施され、昭和35年から40年にかけては家内工業規模ながら毎年約100件もの工場が増加した。

但馬の白生地ちりめんは、独自の撚糸機で強い撚りを掛けた糸で生産しているため、しなやかで優美さと豪華さを備えている。また、シボがあるため肌触りがよく、シワにならず染め上がりが美しく、美術的価値が認められている。さらに、耐久性に富むことから染め直しが可能で、流行の変化の激しい現代にも適している。

最近の業界は、どんすちりめん、駒綸子ちりめん、紋意匠ちりめん、変り無地ちりめんなど高級品の生産に注力しており、新デザインの開発や洋装等新分野への進出についても意欲的に取り組んでいる。

《団体（問い合わせ先）の状況》

兵庫県絹人絹織物工業組合 〒668-0345 豊岡市但東町中山764-1
TEL 0796(56)0038 FAX 0796(56)0038

《事業活動》

- ・但東町、出石町を中心に県下に散在する絹人絹織物業者のための生産調整
- ・新商品「絹ゆかた」のPRなど

靴下

《沿革および特色》

播磨地域での靴下製造業の発祥は、明治19年に印南郡志方町の住民が、上海から手廻しの靴下編立機を持ち帰り、製造を始めたことによると言われている。

当産地での靴下製造は、大阪の靴下工業の勃興に遅れたため、その製造問屋の傘下に発達した。当初は農家の副業であったが、明治中期に煙草が官営事業となるに伴い、転廃業者の資金が流入し、産地の基盤ができあがった。

大正初期に半自動式靴下編立機、更に大正13年には自動編立機が輸入されるなど技術革新が進み、また大正12年の関東大震災により当時第一の靴下産地であった東京が致命的な打撃を受けるなどの情勢変化もあって、播磨の産地規模は急速に拡大した。また東南アジアや中国等にも輸出されるようになった。

その後、昭和初期の金融恐慌、戦時の軍需統制などにより業界は大きな打撃を受けたが、戦災を免れたため、他産地よりも立ち直りは早かった。

また、ナイロンを始めとする合成繊維の開発により素材が大きく変わった。それに合わせて生産形態においても、設備の近代化、技術水準の高度化が進んだ。

現在では、奈良県、東京都とともに全国三大産地を形成している。産地の企業形態は、①繊維商社的有名ブランドメーカーの協力工場として生産を行い、百貨店や量販店に商品を供給するもの、②他メーカーの下請として半製品や賃加工品を製造するもの、③卸売業務に特化したもの、などの3つに大別される。

《団体（問い合わせ先）の状況》

兵庫県靴下工業組合 〒676-0808 高砂市神爪1-13-20

TEL 079(432)3665 FAX 079(432)3634

ホームページ <http://www.hyogosocks.or.jp>

《事業活動》

- ・情報、資料の収集、提供
- ・靴下まつり開催
- ・産地PR事業
- ・Kips じばさんショップの運営
- ・Kips オンラインショップの運営
- ・産地ブランド「アミンゴ」「キップス」「ロンセ」「カントリー」の推進

作業手袋

《沿革および特色》

作業手袋業界は、靴下製造業と関連が深く、大正初期頃に靴下業界と相前後して姫路市飾東町、印南郡志方町に発祥した。当時は農家の副業として営まれていたが、第一次世界大戦時の好況により企業化

が進展した。生産地も近隣に発展し、作業手袋(旧軍手)産地として認められるようになった。作業手袋は、従来、主に防寒用として使用されたが、工業発展に伴い、危険防止用として作業の必需品になった。

第二次世界大戦時には統制が敷かれ、組合は、兵庫県メリヤス工業協同組合の手袋部として原糸の配給、製品の販売統制事業を行った。昭和25年に統制が解かれると、兵庫県手袋工業協同組合が結成された。

同協同組合が統制解除後の自由競争による事業不振に陥り有名無実化したため、業界は昭和39年、通産省の認可を得て新たに兵庫県作業手袋工業組合を設立した。

《団体（問い合わせ先）の状況》

兵庫県作業手袋工業組合 〒671-0207 姫路市飾東町山崎542-2

TEL 079(262)0018 FAX 079(262)0992

《事業活動》

- ・品質重視による輸入品との差別化
- ・商品の適正価格の安定化
- ・新商品開発（新素材による製品化）
- ・お客様とのコラボレーション

撚糸

《沿革および特色》

兵庫県内の撚糸業は、明治38年に赤穂市の桃井製網で漁網用撚糸が製造されたのが始まりと言われている。

但馬地方の絹織物用撚糸では終戦後まもなく、播州産地では播州織の高級化が要求され始めた昭和30年頃から、企業としての形態が整い始めた。当時、撚糸専門業者は7～8軒で設備数も少なかったが、その後業者数は年々増加し、昭和38年には60軒近くになり、兵庫県撚糸工業組合が設立された。組合設立と同時に、業界の生産秩序の維持と企業の安定のため「中小企業団体の組織に関する法律」に基づき、撚糸機の登録制を実施した。

以降、播州織をはじめとする織物の高級化や多様化に伴い、撚糸業者も副業的形態から本格的に専門業者となった。繊維産業における素材提供者として重要な位置を占めている。

しかし、撚糸専門業者の増加と市況の落ち込みから慢性的な設備過剰状態に陥り、業界では設備共同廃棄事業による過剰設備の買い上げ廃棄を行い、需給調整と転廃業の促進に努めてきた。

さらに、平成5年10月末日から登録制が廃止となり、組合員でなくとも事業開始が可能となったために組合運営そのものも厳しい時代となっている。

《団体（問い合わせ先）の状況》

兵庫県撚糸工業組合 〒677-0015 西脇市西脇990

TEL 0795(22)3901 FAX 0795(22)8739

神戸アパレル

《沿革および特色》

神戸アパレルは、開港以来の神戸のハイカラな文化や海と山の恵まれた自然環境を背景にして戦後新

しく生まれた産業である。ほとんどの企業が神戸市中央区に本社を置き、商品の企画、デザインと卸機能を中心に成長してきた。

高級ブラウスやニット製品の婦人服をはじめ、子供服、ベビー用品、アクセサリ等神戸らしい特徴をもつ商品は、神戸ファッションとして全国的にも高い評価を受けている。神戸ではアパレルをはじめ、ケミカルシューズ、洋菓子、洋家具、真珠等の生活文化産業をファッション産業として捉え、これらの産業をバックアップするため、昭和48年に「ファッション都市宣言」を行ったのを皮切りに、昭和58年にはアパレルはもとより、真珠・スポーツ・食品・化粧品企業などによる「神戸ファッションタウン協議会」を結成し、ファッション都市化を進めてきた。それと相前後して神戸アパレルは急速な成長を遂げ、付加価値の高い知識集約型産業の中核として大きくクローズアップされている。また、宣言以降、経済界と行政が一体となって「ファッション都市づくり」を推進し、「神戸ファッションコンテスト」や「ドラフト!」といった神戸アパレルの人材育成や販路開拓を支援する取り組みなどを進めてきたほか、平成14年には、今や日本最大級のファッションイベントである「神戸コレクション」が始まるなど民間主導でもファッション都市を盛り上げる動きが活発に行われている。

ハード面では平成元年11月、ポートアイランドに、アパレルを中心としたファッションタウンがオープンした。さらに平成3年には、六甲アイランドに日本初の本格的ファッションビジネスセンター「神戸ファッションマート」がオープンし、同年神戸ファッション協会、平成9年には神戸ファッション美術館が設立されるなど、神戸アパレル支援の仕掛けが着々と整備されてきた。

《団体（問い合わせ先）の状況》

公益財団法人神戸ファッション協会 〒650-0046 神戸市中央区港島中町6-1神戸商工会議所会館6F

TEL 078(303)3123 FAX 078(303)3122

ホームページ <http://www.kfo.or.jp>

参考URL

兵庫の地場産業（概説）	http://kdskenkyu.saloon.jp/jibasan.htm
同上（食料品）	http://kdskenkyu.saloon.jp/pdf/jbs01foo.pdf
同上（繊維）	http://kdskenkyu.saloon.jp/pdf/jbs02tex.pdf
同上（化学・雑貨）	http://kdskenkyu.saloon.jp/pdf/jbs03che.pdf
同上（窯業・土石）	http://kdskenkyu.saloon.jp/pdf/jbs04pot.pdf
同上（機械・金属）	http://kdskenkyu.saloon.jp/pdf/jbs05mac.pdf
兵庫の伝統的工芸品（概説）	http://kdskenkyu.saloon.jp/tracrafts.htm
